

# 動いた土木部課長評〔四〕

丹波浪人

○

部制の下に神奈川で計畫課長をしてゐた榊井照藏君、産みの親、高田景が京都に去つてから碌々としてゐたが、遂に青森縣土木課長に轉任した、人には必ず自惚があるもの

とすれば、定めし當人は榮轉とは思つてゐないだろう、併し世間は矢張り君の轉任を榮轉と評する、夫れは君の能力乃至手腕が同期生に擢てゝゐた勢であろうが、四十五年出の仙臺高工出身者としては髓に榮進だからだ。

君は仙高を出て直ぐ京都府に採用された、當時例の寺崎

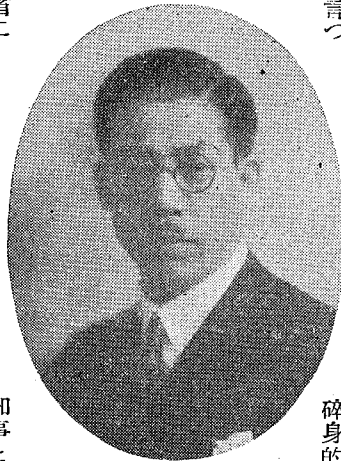
新策のもとでひら技師をしてゐた高田景に養成されて、由良川改修工事では随分苦勞したが、夫れと同時に田舎藝者を相手に遊ぶこと迄も覺えた、福知山でて長田野越エター何て言ふ歌を覺えたのも彼れ高田のお蔭だ、併し夫れ程迄に高田に師事してゐた君は、持ち前の野心を發揮して寺崎や高田の下に働くのは野暮な藝だと言つ

て京都府を飛び出した程の意氣と才智のある男だ、併し世間は君が自負する程には買つて呉れない、福岡市の水道やら海軍の技手を勤めて見たが、君の所望は容れられ無かつた、そこで自ら悟つたのである

うか、大正八年内務技手となつて本省に

戻つて來た、夫れが君を今日あらしむる前提だつたのだ。

自由放擧な地方生活に日を送つた君が内務省に勤務することは随分苦しかつたらしい、夫れに例の野心が手傳つて人より先きに榮進するのを希望して已まない、當時の技術



課長近藤博士も之には随分手を焼いたが、京都で世話になつた高田が土木課長をしてゐる神奈川に技師の缺員が出來た、高田も昔の教え兒、いらぬこと迄も教えてやつた榊井が、不平を言つてゐるのに同情して遂に神奈川縣技師に採用したものだ、夫れからと言ふものは二人が協力して粉骨

碎身的に神奈川の土木行政を切り廻した、八ヶ間敷屋の長官清野長太郎やら有吉忠一

榊井が、所謂土木知事として多大の功績を残して行つたのも矢張り兩人が活動した結果と言つても過言でない、京濱國道開通式のとき、某縣

會議員か有吉に向つて、閣下が神奈川縣

知事としての大功績は、高田君を土木課長につれて來た其の一事であると言つたそうだが、其の高田の受けた賞讃は榊井に半分遣つても可いと評されてゐる。

此位に言ひ囃された榊井も、ウキスキーを喇叭飲みして銀座通りを素見す程の呑黨であるので、有吉の後を襲つた

知事堀切善次郎は、前長官のやうに彼れ榊井を待遇しない、

高田と二人が顔を見合して嘆息したのもさぞ此時であつた  
であらう、併し幸に其の期間は短かくて池田宏が知事とし

て來た、能力と手腕を標準にして人間を測定する池田は、  
堀切のやうに一私事に立入つてまで彼是言はない、榊井も

亦可愛がられたが部長には例の三輪周藏  
がきて昔の榊井たらしむることを許

さない、人を觀るに穎敏な池田知  
事は兩者の關係を看取したのであ

らうか、水道や水力電気事業視察  
の爲に洋行さして呉れた、夫れが

更に君を大ならしむるに至つたのだ。  
幸運兒榊井、夫れは假令君の力の勢で

あつたにしても、此後のことは測り知ることが出来ない、  
任地青森は片田舎とは言ふもの、随分面倒な處だ、高田や

池田のやうな恩人は再び君を見舞はないであらう、妻君に  
は氣の毒かも知れないが、九人の子持、妙しは生産を制限

し節酒して大に働き給へ。

○

京都府の道路課長から山口縣土木課長に轉した關谷新造  
君、部制の一課長から全縣下の土木行政を司る課長に爲つ

たのだから榮轉と言つて可いだろう、殊に任地  
山口は小京都と言はれる程、氣候乃至、

關 風土や人情が京都によく似てゐる  
谷 から、轉任、と言ふ心地もしない  
新 造 であろうことは君に採つて幸福な  
君 ことだ。

大正五年京大を出て十四年廣島縣技師に  
なる迄は、恩師の言ふが儘に働いたものか尼ヶ

崎や福井の水道技師を勤めた、其の勢であらうか随分世事  
には通じ過ぐる程通じてゐる、あの大きな顔に皺を寄せて  
笑ふところなどは、見方に依つては随分人を喰つてゐる形  
像だが、夫れも矢張り田舎めいた市會議員を相手にして苦

勞した顯れであらう。併しそうした可愛い茶目な所が又君の人氣のある點だ、君に接したものは決して君を悪くは言はない、村山喜一郎が、大阪を追はれて京都に轉じたとき君を態々廣島から探つて道路課長に迎えたのも、矢張り君の特長に惚れたのであらうと噂されてゐる。

君が京都に轉したとき、京都府の役人はエライ茶目サンが來ヤハツタと言つて、君の行動に注意したものだつたが、君の京都末期に方つては、矢張りあの人は村山ハンの番頭だつた、と口善悪ない京童をして今でも評さしてゐる、と言ふのも村山君が例の調子で遠慮勝ちの質、心の裡では言ひ度くて仕方がないことでも控えて言はない、夫れを代辯するのが君であつた、人間性は變なもので同明相照同類相求と言つた間柄では決して親分乾兒の關係は成立しないものだ、性格が違つて足らざる所を補ひ合ふと言つた調子のものが、緊密になるものだ、此例はよく大臣と秘書官と言つた關係者の性格に見ることが出来る、君も亦此例で村山君の秘書官と爲つたのであらうが、夫れを得意と言つては

失敬かも知れないが實際餘り踊り過ぎた嫌があつた、で、京都人は君の如才無さを目して誠意が無いと言つてゐる位だ。

任地山口の行政は、君の手腕を以てして治め得ることは大丈夫だが、前任者後藤が正直過ぎる程の一本槍で通した後に、如才のない君が行つたことは、縣議をしてさぞ驚かして居るだらう、誠意を以て働け、夫れが君に呈する苦言だ。

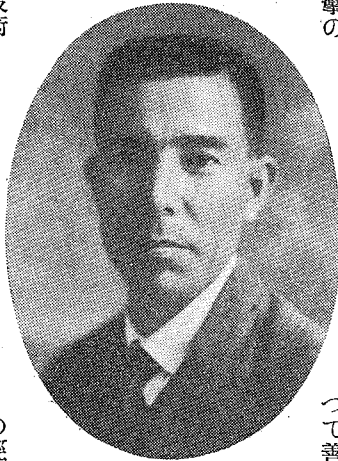
浪人、東森藏君が廣島縣土木課長に爲つた、四十五年大學出の來島良亮や、所武光が土木部長と爲つてゐる今頃に、同期の君が廣島縣位の土木課長に爲るのは當然過ぎる程の當然事で餘り囃立てる程のことでも無いが、浪人から任官した、そのこと夫れが又浪人に爲つたときの動機を思出さしめて、君の任官を評する價值がある。

昭和三年熊本縣土木課長であつた君が、内務部長から辭

職を勧告されて退官したとき、聲明書を出し、縣下土木工事の請負に關し時の政府與黨たる政友會系議員が請負人指定の要求をした其の横暴を指摘し、自分は縣民の利益の爲に之を拒絶した爲に、之に基因して退官するの餘義なきにつ至たことを聲明し、熊本縣治の改革と綱紀の維持を叫んだ、夫れが憲政會系議員の縣治攻撃の餌に供せられて相當地方的問題波紋の動機と爲つた、夫れから誰言ふ

となく君を民政黨系土木技師と目するやうに爲つてゐたのだから今の内閣で復活するのは當然事で、強ち不思議なことでもあるまい。

公平を強調する内閣でありながら技術官の任用でさゝるもコー露骨に政治的意味で處理する位なら、何れ内閣が變つたら又誠首される必定だモ一少し上級の府縣、せめて愛知縣の土木部長位に採用しても良さそうなものだ、とは周旋人松村義一郎だけの希望でなく君に同



情を寄する者の等しく望んだ所だつたが、見渡すところ土木部長で誠首する者も無いと言ふので廣島に落附いたのは、或は部制を探る府縣の幸福であつたか夫れとも不幸だつたかは言は無い方が可いだらう。

君は鹿兒島産だけに強度の反抗的性格の特主だが、性至つて善良だ、であるから反抗性を極度に發揮するのだ、政友系議員が強迫をせなかつた

東 なら、夫れ位のことを夫れ程にも  
森 固持しなかつたであらう、と言ふ

の、大正七年秋田縣技師に爲つてから福島や栃木と地方生活を十

年間も無事に勤めて縣會議員の操縦に多くの經驗を持つ君が、短氣を起さなかつたであらうと言ふのだ、詰り熊本の政界が君をして民政黨たらしむるやうにしたので決して君の罪ではなかつた、詰り廻り合せが悪かつたと言ふのだ、であるから君も此度の任官で世間が囃立てゝゐる程に民政黨の爲に働く必要も無から

う、技術の判断を政治的に決するやうなことは技術家として慎むべきことであるのは君が百も承知のことだ、警察的政治家の煽に乗らぬやうに心掛けて、排政治的技術の爲に没頭することが、君將來の爲に得策であろう。

○

京都府土木部長の村山喜一郎君が退官した、内務省から退官を獲憑したのだイヤ佐上知事が言ひ出したのだと、色々に取沙汰されたものだが、本人は行くべきところに迄行つたから後進の爲に退官した、と言つてゐるから之に間違は無い筈だ、夫れを兎や角離し立てるのは愚だ。

君が明治四十一年に京大を出て和歌山縣工師に就職してから今日まで約二十一年間、我が土木行政の爲に盡した其の効勞に對して、唯だ纔に、勅任官待遇と言つた位の生優しいことを以て酬ゆるには餘りに殘酷だ、佐上知事も夫れを氣にして屢本省に懸け合つたが、唯だ其の方法と慣例が無いと言ふので好果を收め得なかつたそうだ、世は緊縮を

強調する内閣のときであるから假令物質的の待遇が出来なかつたにしても彼をして精神的に喜ばしむる方法があつたであろうに、遂に酬ひられないで退官したのは筆者の頗る不満とするところだ。

君も隨分各地を轉々してゐる、和歌山から福井に、夫れから一度は内務技師と爲つたが又地方稼に出て兵庫―大阪―京都と言つた風に歩いた、併し和歌山や福井時代は第一期生活で君が眞の手腕を振ひ出したのは、何と言つても内務から兵庫へ行つてから以降のことだ、内務で例のライオン博士牧彦七に養成？ された譯でも無いが、周旋人三矢宮松と言ふ後楯がある夫れに君を懇望した知事の有吉忠一の下で働くのだから、自ら潑刺たらざるを得なかつたであろう、例の阪神國道の改良も武庫川の改修事業も君が有吉と共に兵庫に残した大事業だ、コーして土木知事有吉の名を爲さしめたのも畢竟君の力だ、大阪の任期は短かゝつたにしても大阪近郊に於ける放射環狀道路の計畫を樹てた、計畫の才あるものは實現力に乏しい、實現力あるものは計

畫の才に乏しいと言ふのが現下土木技術屋の通弊だが、君は兵庫で實現力を示し、大阪で計畫の才能を發揮した、借すに一二年を以てしたら今亦行惱んで居る近郊道路の計畫も或は實現されたであらうに、新設された土木部長に爲ると言ふこと、御大典事務を執行すること、で君を京都に轉

せしめたのは大阪に探つては一大損失であつた、京都に轉じた君は、御大典

に關する土木事業を無事に完成し

丹後地方に於ける大震災の復舊

も終了せしめた、夫ればかりでは

無い、君が京都に轉じたとき、筆

者が本誌で君の責任とした淀川や木

津川大橋の架換やら京阪國道の改良も、

眼鼻を附けて呉れて前者は今正に竣功せむとしてゐるのは、君が努力して呉れた賜に外ならない。君の美點と言ひ

缺點と評せられてゐる女性的の態度は、今君の功績を拾つて見ると餘り彼は言ふべきでは無からう、夫れに京都時代

には民間からは決斷力に乏しい人だなどと言はれてゐるが、知事大海原の政黨的な意見に追隨して言ふが儘に決斷してゐたら、今頃どんな事件が起つてゐるか判らないであらう、夫れを豫知して言ふが儘に爲らなかつたのは寧ろ評者よりは君の賢明を讃えるのである。

斯様にして君の效績は關西重要府縣に残されて

ゐるが、君の私的生活には悲惨事が殘さ

れた、と言ふのは愛妻に死別した

山 ことだ、君が公的生涯の大半を過

喜 一 すまで君をして誤なからしめて呉

郎 君 れた愛妻を失つたことは、君を知

る人の何れもが同情するところ、獨り君

の後援者例の熱血男兒長岡隆一郎ばかりではな

い、筆者も亦同情の涙に咽ぶのである、が併し夫れ以來君

の元氣は衰えた、長岡氏の媒介に依つて新妻を迎えたに

しても、元の勢力を再び見ることの出来ないのは頗る遺憾

だ、或は之が崇つて君を老衰したものと誤認せしむるので



は無かろうか、併し物事は可い加減に諦めることが肝要だ、君と同期生京都市土木局長の高田景などは、君より以上に妻不運な男だが、夫れでも尙元氣潑刺壯者を凌駕するの概がある、是も亦君が東京に旅してゐて毎晩京都に電話し新妻の安否を氣遣ふやうな苦勞人で無い勢かも知らないが、彼と君とが十も歳の違ふやうに見えるのは慥に君の損だ、永らく在官した者が退官すると例の方面は壯年時代の夫れを挽回するそうだ、折角長岡氏が與えて呉れた新妻と壯年生活を再現して、去らむとする君の元氣を引き戻すことが肝要だ。

○

和歌山縣土木課長で退官した、森四郎君、退官は私共をして同情せしむる、と言ふのは君が大正四年に東大を出て公人として働くのは是からだと言はれる歳頃でありながら今頃退官して門司の市役所に行かなければならぬことに爲つたことだ。

君は學校を出てから石川島や三菱の造船所に這入つたりのが、君の溫厚な個性を溫順—屈服と言ふ程度の性に化してしまつたのであろうか、官吏として大阪や福井夫れから復興局に勤めたけれども、矢張り君を統制的—權力的の性格の持主に變化せしめなかつた、夫れに心附かないで、海草閥が跋扈して縣政を私してゐるやうな、偏頗な和歌山縣に配したのが間違であつた。

和歌山に轉じたとき、多くの友人は、古武士の小原與でさえも手を焼いた縣だから要心が肝要だと注告したが、古老事務官が土木課に勤務してゐて、土木課長然として部下を統制してゐる、年若で溫順な君が若僧扱にされたのも無理は無い、君の土木課長振りは遺憾ながら香しくなかつた、そこで門司落ちと爲つたのだらう、併し門司は九州の咽喉の地だ、港灣を始め道路工事は頗る多い、何も官吏の地位に在ることが、君をして技術の手腕を振はしむる譯でもあるまい、大に奮闘して和歌山に受けた非難を消滅せしむることだ。



○  
神奈川縣土木部の道路課長から和歌山縣土木課長に轉じた平川保一君、慥に榮轉組の一人だ、大正六年に東大工科を出て此度轉任する迄、約十三年間も神奈川縣の飯を喰つてゐたことは、假令夫れが仕事の關係で

留任を餘義なくされたにしても、各

地を轉々流浪するのを常態とする

土木技術官には珍らしいことだ、

夫れは君が眞面目で何等の野心を

持つてゐないことの表はれとでも

言ひ得やう、同期生が自分より先に

榮轉しやうがそんな事には一向頓着ない、

唯だ與えられた技術の十全を期することが、俺の生命だと

觀念してゐる男だ。

我國にも道路の改良熱が這入つてきて、眞先に東海道の改良が唱導され計畫されたとき、京濱間の國道やら箱根峠

の改良が目論まれ、君は夫れを計畫し完成した、今も夫等の工事が我國改良道路の範と言はれてゐるのも、畢竟君が巧妙な技術を應用した賜である、眞面目な技術官、夫れだけ亦技術の應用に就ては確心を持つてゐる、會て六郷大橋の架設に就て、橋梁の大家と價値附けられてゐる民間の設

計者増田惇と意見を異にして論争した其のとき

の勇氣と熱心さは、牧博士と西義一との

平 夫れに劣らぬ位に強固だつた、是

川 等の技術家的態度に惚れた勢であ

保 ろうか、時の長官堀切善次郎は、

君 君を歐米に於ける道路工事の視察

に洋行せしめた、夫れに依つて君は自己

の抱持してゐる技術の確心に一層の箔を附ける

やうに爲つて、道路工學専門の技術官と爲つたのである。

任地、和歌山は海草闊や反海草で醜い小鬮を續けてゐる

處だ、夫れに和歌山生え抜きの元老事務官やらが夫等の闊族と提携して縣下土木界に蔓延つて居る、前任者森四郎が

餘り活氣がなかつたのも、夫れが爲だと評せられてゐる位の處へ、高田景や三輪周藏と言ふやうな政治家的技術官の下に、純眞技術に従事してゐた君が、赴任したことは、或は森の二の舞を演じやしないかと、友人は心配して居る、併し眞面目な君にも人の意外とするやうな茶目氣もある、曾て巴里に滞在して居たとき、鶴見花月園の女主人公と相携へて見物したやうな風流味もある、と言つた調子で人の意表に出ることもする、知事友部は曾て土木行政に苦心した男だから、君の技術慾の爲には同情するであらう、是等の同情やら君固有の手腕で和歌山の土木行政を此際改善するが良い。

○  
東京府土木部の土木課長をしてゐた地方事務官正木虎藏君が罷めた。

近頃でこそ、土木部課長は常に土木技術官を以て充てられることに爲つたが、部制の實現以前は、此處東京府の土

木課長に限つては常に事務官を以て充てられたものだ、夫れが悪かつたか或は良かつたかは別問題としても、土木行政の内には常に普通の法律家が頭を捻つても容易に解決しない法律問題が多い、夫れ等の問題の多い所では技術官では勤まらない、矢張り事務官の課長を置く方が便利だ、コト言へば、内務省の土木局長まで技術官を以て充てと、言つてゐる工人倶楽部の連中は怒るであらうが、行政の實際は卿等の要求を容るゝ餘地がない。東京府は夫れであつて正木君が其の任に方つてゐたのであつたが、部長には技術官の來島が來て土木部を主管することに爲つて、彼れ正木も氣不味い勤めをするのに否氣が差して罷めたのであらう。

土木部課長には技術官を以て充つるのが可いのか悪いのかは議論の餘地があるとしても、事務官に技術のことを望み技術官に法律のことを求むるのは、綠木求魚の類であつて不可能事だ、夫れに双方を兼掌せしめんとする現制度は無理だ、之だから政治家的技術官と言はれるやうな連中が

出来るのであつて良制度とは言へない、理想は矢張り事務官をして統轄せしめて技術官は専門の分野に働けば十分なのである、我が正木君は幸にも理想の位地に於て土木行政を執行し相當の成績を収めた。

東京附近の道路は悪路だ—悪路の標本のやうに言はれてゐるが、放射道路や環状道路は大阪や其處らのものに比較にならぬ程改良されてゐる、是等は前任者が計畫した所を實行しただけだと言ふ人もあるが、都市附近人家稠密の箇所では是れだけの仕事をするには、

到底青二才の事務官には出来ない藝當だ、元老事務官、何んて言ふ敬稱？を

上つて、多くの技術官が素見しても、土地の收用で幾多の

法的問題を惹起した此事業を此處までに進ませしめたのは、全く君の力だ、私は君の効績を讃えずには居られない、未だ知命の歳に達してゐない君のことだ、いま迄と同じや

うな英氣を以てすれば萬事は成功する必定だ、大に自重して新事業に向つて活動せむことを希望する。

正木君の後を襲つたのは、事務官の南孝夫君だ、正木君の部下に道路主事として都市計畫道路の完成に努力した、其の功勞に酬ひられた榮進とでも言つて良い、時に剽輕な

警句を吐いて人を笑はしむるが、彼の獨眼南鼎

三の従兄弟であるだけに、熱と氣慨の持

正 主だ、部長來島は曾て内務技師時

木 代に秋田の市會議員を勤めたやう

虎 言はゞ政治に傾きかけてゐる男

君 だが、固と技術の畑に育つたので

法的智識には乏しい、併し常識にたけて

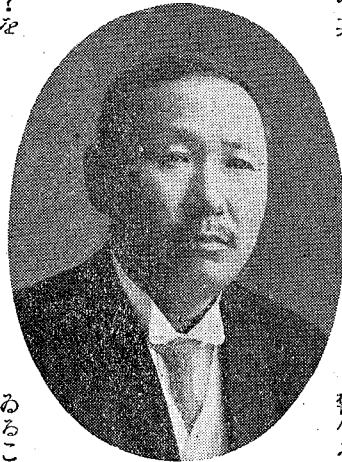
ゐることは地方技師に珍らしい程だから仲良く

協調して土木行政を執行して貰ひたい。

南君と共に東京府の都市計畫課長に爲つた金子源一郎

君、直に廢止される復興局から東京府に這入つた譯だが、復

興局廢止に伴ふ人事行政が之を強制したので無いことは、



筆者が保證する、と言ふのは、復興局で工營課長や都市計畫課長の重要な位地を占め、局が廢止の運命に迫つてゐるにも不拘歐米へ洋行さして貰つた程の俊才だからだ。

東京市時代から下水事業に携はつた所爲であらうか、君の擔任は常に下水に在つたやうだ、東京府も都市計畫事業として郊外町村の下水道を築造するそうだから、君が今其處に行つたのは頗る時機を得て居る、マー自重して大にやるが良い。併し下水ばかりが都市計畫でないから夫れに依つて街路の改良を忘れてはならぬ。

○

村山君の後を襲つて長崎から京都府土木部長に爲つた、調所武光君、此度の異動で愛知の宮島に次いで儲けものをした一人だ。

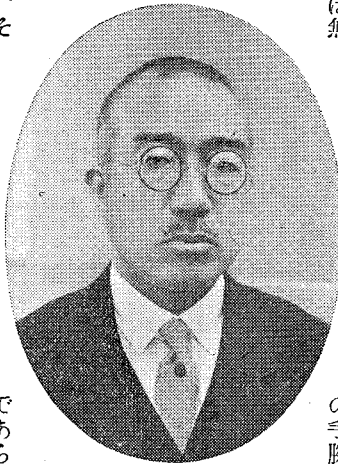
口善惡ない連中は、君の榮轉を兎や角評して焼餅を焼いてゐる、知事佐上の鞆を旨く持つたから、彼れが村山を追ひ出してまでも調所を取つたのだ、と、成る程、そう思へ

ば其のやうにもある、と言ふのは知事佐上信一が岡山や長崎に轉ずる度毎に、彼れ調所も亦夫れに追隨して土木課長の職を逐ふて行つてゐるからだ、併し夫れは事の實際を知らない一部焼餅屋の評言で當つてゐない、彼れ調所は幸か不幸か身、華族の家に産れ、小學校から高等學校までを學習院に送つた、で鞆を持たせることは知つてゐても夫れを持つことを知つてゐない筈だ、で廣島縣一平民の子佐上に巧言令色を呈するやうな否な夫れを仕度も出來ない、却つて知事から愛想を言はれて喜で居る態の男だ、夫れを知らないで兎や角言ふのは間違だ。

憲政會内閣のとき、佐上は内務省神社局長から逐はれて岡山縣知事に爲つた、土木課長も地方長官の異動に伴つて交送された、その時愛媛から岡山に轉任を命ぜられた君は、土木行政に精通する佐上知事の下に遣られたので赴任を躊躇したが、誠意の一枚看板で知事に方れと言ふ友人の忠告で不承々に赴任したものだ、ところが其の誠意振りが知事の氣に入つて、あれ程眞面目な純良な技術官は曾て見な

かつた、と彼れ佐上をして言はしむる位に信用され、君も亦何事があつても知事には迷惑をかけない、自分で責任を負ふて總てを遣つてのけると言ふ調子、夫れからと言ふものは土木のことは總て調所の方が長所があると言ふので信用を博してゐる、人間は同氣相似るものは決して親分乾分の關係を生むものではない、饒舌家は無

口な男を、無口なものは饒舌を愛するやうに相反した性を好むものだ、蓋し無口な君も此理屈に依つて可愛がられたのであらう、言はゞ幸福な男だ。



事の意に反したやうな仕事を目論むのは不都合だが、夫れと言つて日常の事務を仰せ仕つてゐるだけだが能ではない、知事の思はざる所を指導して府民の利益と爲る事業を計畫建議することが、知事を大ならしめ君の事業慾を満足せしむることゝ爲るのだ、財政的に貧弱な京都ではあるが、君の手腕に俟つべき相當な事業がある筈だ、華族間の交際だけでは佐上知事が君を信用し調懇望して取つた厚意に酬ゆる所以では無い、殊に兎角の非難を受けてまで夫れを敢行した佐上氏に對する恩と土木部長の前途とを思つて京都で一大奮闘を試みるのが君の責任であらう、苦言を呈して君の榮轉を祝する。

併し君將來の爲には、焼餅屋の言を對岸の火災視することは出來たい、それと言ふのも、君が四十五年に京大を出て、東京府を始め群馬、愛媛、岡山、長崎と言ふやうに轉々してゐるが、君が自發的に計畫した事業を見ることが出來無いことだ、勿論知事の部下である土木課長が、府縣會議員と通謀して知

調所君の後を襲つて、福島縣から長崎縣土木課長に轉じた中川幸太郎君、己むを得なかつた榮轉と評して良からう。

曾て加勢清雄が福島縣知事時代に、知事の命令とは言ふものゝ内務省の指揮に従はないで、只見川の水利事件を處分して、時の土木局長宮崎通之助から大目玉を頂戴したこともある。夫れ程上官の命令に服従することの従順な男だ、官僚政治が行はれてゐる世であつたなら或は君の行動は慥かに動何等かの價値はあつたであらうが、今は矢張り昭和立憲の御代だ。知事は非常な非難の裡に退官した、夫れは當然なことであるが、君も亦其の罪の一半を負ふべきであつた、併し幸なことには前知事伊東喜八郎が、君の前途の爲に圖つて呉れたお蔭で洋行中であつたので知事が變つても君は無風地帯に置かれ、歸朝早々恩人伊東知事の懐に入つたのだ、幸福な男と言つてよい。

併し此幸福を獲ち得るまでには随分君も苦勞したであらう府縣道の認定やら伊東知事の事業慾を満足せしむる爲に、……夫れは何れも正當のものであつたが洋行を目前に控えて最後に加勢知事とやつたあの仕事は全く玉に疵だ、是も洋行を急いだ勢でもあらうが、世間はまだ其の罪を免

除しては呉れない。

知事伊東は政治的に無色な男だ、東大の末弘博士ではないが、政務官と事務官とが對立して事務官の地位を法が保護してゐる世なら、今頃は長崎に閑日を送つて居る知事ではない、併し政黨化されてゐる現世だ、佐賀で孤城を守つてゐた吉村哲三が、復興局に呼び戻されて既に九州の第一壘は破られた、彼れ伊東の前途も或は影が薄いであらうが、夫れを扶けて善處することは、君が恩人に對する義務だ、福島の一の舞を演じないやうに心得て貰ひたい。

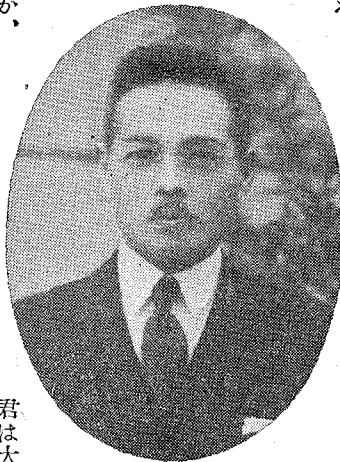
兵庫のひら技師から、神奈川縣土木部の河港課長に爲つた村瀬吉雄君、榮轉と言つて可いだらう、併し一年先きに仙臺高工を出た榊井照藏が、二年も先に神奈川縣の課長になつてゐたことに對照すると、當然な順序を辿つた轉任とも言ひ得やう。

君は榊井と同じやうに見習時代を京都府に送つた、榊井

が山氣を出して福岡市に這入つても君は依然京都に止まつて、孜孜として實務の研究に日を送つたが、内務省に這入つて見習の範圍を廣めやうとしたとき、榊井も亦這入つて來て相竝で競争したものだ、榊井は神奈川に君は兵庫に技師として轉任したが、生れ持つた君の溫厚さは、却つて虐視され不平滿々の裡に日を送つたのを、

時の土木部長田邊良忠が同情したのだらう、神奈川の土木部長と爲つて君を採用した、是も君の手腕の然らしむるところであらうが、夫れを見抜いて呉れた田邊に敬意を表しても可い。

兵庫と神奈川、餘り違ふ所はないが、東京に近いだけ又土木行政も面倒なところだ、鶴見川の埋立にしても逗子の埋立問題にしても一つ事を誤ると直ぐ中央の問題となる、で兵庫以上に細心の注意を要するのであるが、餘り細心過ぎてると亦非難が起る、要は折衷して細



心に大膽に決行するに在る、併し君は何事に就ても遠慮過ぎる、妻君がテニスをやつてゐても君は家の内で勉強して居る内氣な性だ、活潑な妻君の氣性を半分でも可いから君に移したら、とは、常に友人の話題に上つてゐる位だ、大膽にやつて田邊の効績を兵庫以上たらしめたいものだ。

○  
村 鹿兒島から中川福島の後へ行つた  
瀬 浅見洋君、暖かい土地から寒む  
吉 過ぎる地に轉じたのだが、東京に  
雄 近づいた、けでも結構だと言つた  
君 程度の轉任だ。

君は大正六年の京大出だが、他の連中とは違つて學校を出ると直ぐ米國へ行つてコーネルやらイリノイやらの大學で約二年間も研究した、是も親父が土木屋であるところから自分の經驗から態々洋行さしたのであらうが、兎に角篤學の士だ、歸朝後は内務技師と爲つて信濃川や神

通川改修工事に従事したが、他動か自發か知らないが大正十三年に内務の直轄工事から離れて長野縣土木課長と爲つた、技術に没頭して居れば夫れで十分な地位から俗物縣會議員を相手にせなければならぬ土木課長と爲つたときは、同僚から其の成否を疑はれて居たが、案に違はず餘り香しくもなかつた、併し夫れは餘り饒舌り過ぎる君の癖が人の感情を害したこと

に在つた、遂に逐はれて鹿兒島落ちを餘義なくされたのは氣の毒だつた。

當時鹿兒島には松本學が知事をしてゐて、曾て内務省在勤中淺見を知つてゐると言ふので直ぐ採用して、君

の面目も擧がつた譯だつたが、轉任後直ぐ松本が去つて例の後藤多喜藏が任官し君を失望せしめた、が併し君は矢張り持説を實現して鐵筋混凝土三幅間の橋梁主義を貫徹し、各地に橋を架けたことは、君が鹿兒島に残した著大な事績

だ。

饒古家淺見も、鹿兒島では慎んだのか民間には随分人氣を博してゐる、佐藤利恭や田中好の惡舌家が出張したとき、宮崎から鹿兒島に着く迄、士族平民の區別論やら某博士のことで饒舌り通した、宿屋についてから、なぜ夫れ程饒舌

つたかと尋ねたそうだが、彼が笑つて言ふやう、

惡路を見せると非難するから夫れを見せ

淺ない爲に防禦の一席をやつたのだ

見と、彼も亦拔目のない男だ。

洋 任地福島は、自由民權論で有名

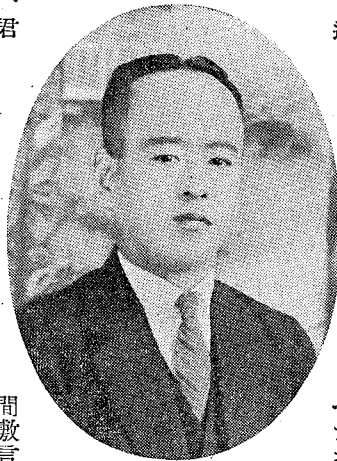
君 な故河野廣中が養成した大小政治

家が居る、今頃に士族平民の區別を八ヶ

間敷言つてゐる鹿兒島とは違つて、言葉尻を捉

えて論議する風がある、君が其の癖を直さなければ再び長

野の失敗を繰返すであらう、自重するが良い。



○



淺見君と交代した福島の新井九郎君、交代と言つても君は福島のみら技師をやつて居たのだから榮轉組の一人だ。

大正四年東大を出て茨城や和歌山に轉々したが、十二年例の東森藏君の土木課長時代に福島に来て、専ら水力電氣の事務に従事して居た、中川君の時代には例の只見川の水力電氣事件で矢張り働いたのであらうが、

夫れは椽の下の力持で効罪ともを君に彼と言ふのは酷だ。

任地鹿兒島は、見るべき水力事

業も少い縣だ、で福島で得た經驗

やら技術は此處では餘り用事はない、

唯だ道路のことが頗る多い、而かも夫れ

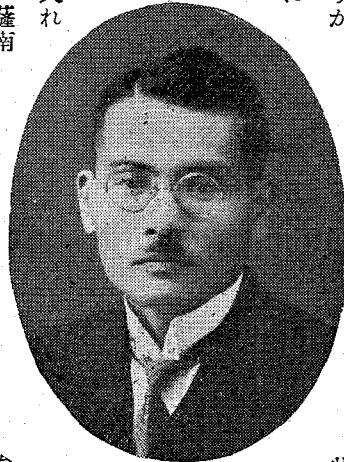
が悪路ばかりだ、何とか計畫を樹て、薩南

の地を開發するが可い、夫れが旨く出来るか出来ないか、

土木課長としての君の前途を運命附くるものであらう。

此度の土木部課長の異動で誠首やら左遷乃至は榮轉と色々な悲喜劇を演じたであらう、併し夫れは人生の一代を運

命附くるものではない、誠首された人だつて内閣が變つたら又浮き上る人もある榮轉した人だつて、いつ迄も可い氣に爲つて居ればしない、遠からず悲劇の主人公と爲るであらう、コゝ考へて見ると悲非悲喜非喜で悲觀樂觀を許さない。



此異動が政治的に行はれたと言つて怒つ

て見ても野暮な話で、政治的にやら

新 れた人もあれば、夫等の人の爲に

井 無意味に動かされた人もある、で

九 人の能力を標準にして行はれた異

郎 動で無かつたことは明かである

う。マー不平の人は時機の來るのを

俟つが良からう、得意の人は來るべき悲

境を考察して政治家的知事の煽てに乘らぬやう注意するこ

とが肝要だ、そして眞面目に働いて居らば不運は見舞はな

いであらう。(完)